



関西エアポート Jブルークレジット認証を取得 ～関西国際空港島の藻場がCO2の吸収源として認められました～

関西エアポート株式会社は、関西国際空港島周辺護岸に生育する海藻によるCO2吸収量を定量化し、Jブルークレジット^{*}の認証・発行を受けたことをお知らせします。

海洋生物の作用によって海に貯留された炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれ、CO2の新たな吸収源として注目されています。関西国際空港島では、護岸の大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用し、長年にわたる育成・維持やモニタリング調査を通して豊かな藻場環境を創造しています。今回のJブルークレジット認証は、これらの取り組みにより育まれた藻場におけるCO2吸収量が公に認められたものです。

関西エアポートグループでは、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロとする長期目標のもと、環境負荷低減に向けた様々な活動に取り組んでいます。

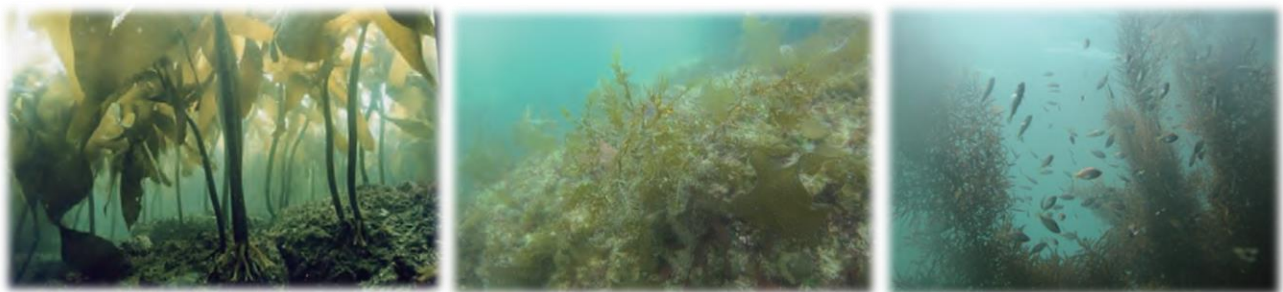
今回、CO2吸収・固定について認められたことは、これまで行ってきた藻場の環境創造が、魚介類の産卵場や育成場としての水産資源の供給や水質浄化に加え、CO2排出量の削減にも寄与できる取り組みであることを示すこととなりました。

関西エアポートグループは、引き続き環境負荷低減に向けた取り組みを推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

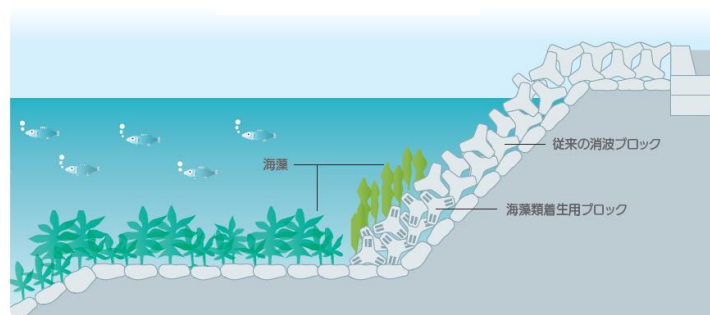
^{*} JBE（ジャパンブルーエコノミー技術研究組合）が認証・発行し、管理するクレジット。JBEから独立した第三者委員会による審査・検証を経て認証・発行される。

【概要】

- プロジェクト名：関西国際空港 豊かな藻場環境の創造
- 認証されたCO2吸収量：103.2 t-CO2（2017年度～2021年度の5年分）



空港島周辺の藻場



緩傾斜石積護岸

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では法人金融、産業/ICT 機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など多角的に事業を展開しています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界約 30 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに活動しています。

今後も、常に新しい価値を創造する強みと専門性を生かし、＜オリックス＞という完成形のない独自のビジネスモデルを基に、企業や人々に活力をもたらす企業活動を通じて社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、欧州、アジア、南北アメリカ大陸の 12 カ国において 53 空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で 2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするため、2016 年から他の空港運営事業者と先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

ブルーカーボンと 関西エアポートグループの脱炭素の取り組み

2022.12.14



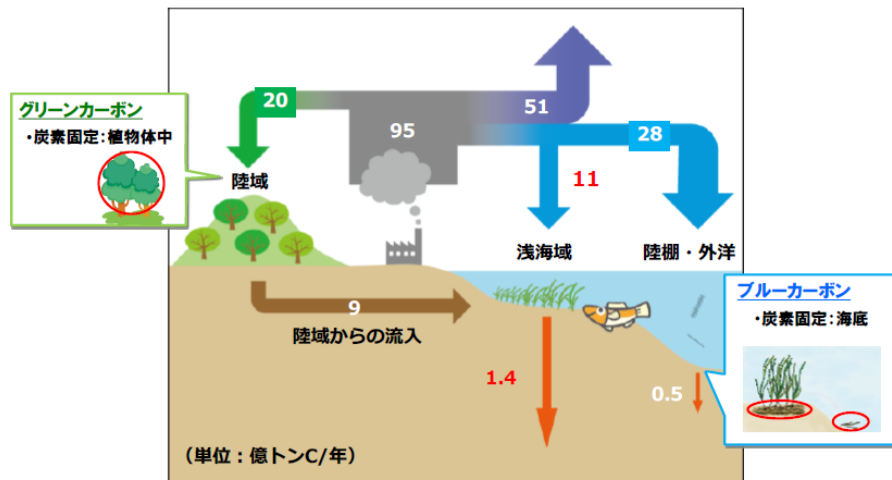
Shaping a New Journey



ブルーカーボンとは

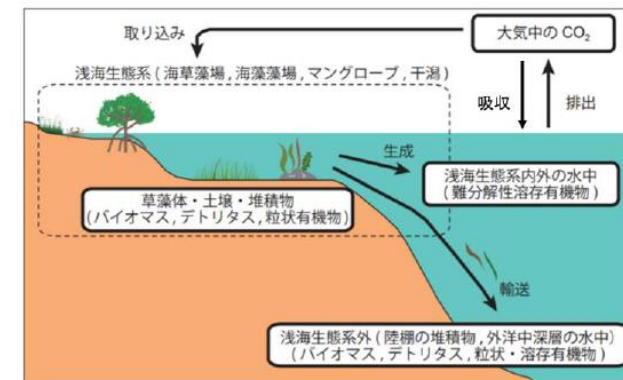
- 海洋生物の作用によって海に貯留された炭素のこと。
- 浅海に生育する植物は、光合成によりCO₂を吸収し海底に炭素を貯留する。
- ブルーカーボンが貯留される主要な生態系には、海草藻場、海藻藻場、湿地・干潟、マングローブ林がある。
- 2009年、国連環境計画（UNEP）が報告書「ブルーカーボン」を発表し、CO₂吸収源として海の可能性を提示。

→ カーボンニュートラルの達成に向けた有力な取り組みとして、ブルーカーボンの活用に大きな期待が寄せられている。



出典: Kuwae and Crooks (2021)を参考に作成

図 1-2 グリーンカーボンとブルーカーボンの炭素循環図



出典: 桑江ら (2019)「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」

図 1-3 ブルーカーボンの吸収・貯留メカニズム

Jブルークレジットとは

- ブルーカーボンを定量化して取引可能なクレジットにしたもの。
- プロジェクトの実施により吸収・貯留されたブルーカーボン量が対象となり、Jブルークレジット審査認証委員会での検証を経て認証されたCO2吸収量。
- 認証されたCO2（Jブルークレジット）は、他者への譲渡もしくは自社活用が選択できる。
→ 関西エアポートでは、自社のオフセット（各種取り組み推進の一方で、ゼロにすることが困難な排出に対して）に活用予定。

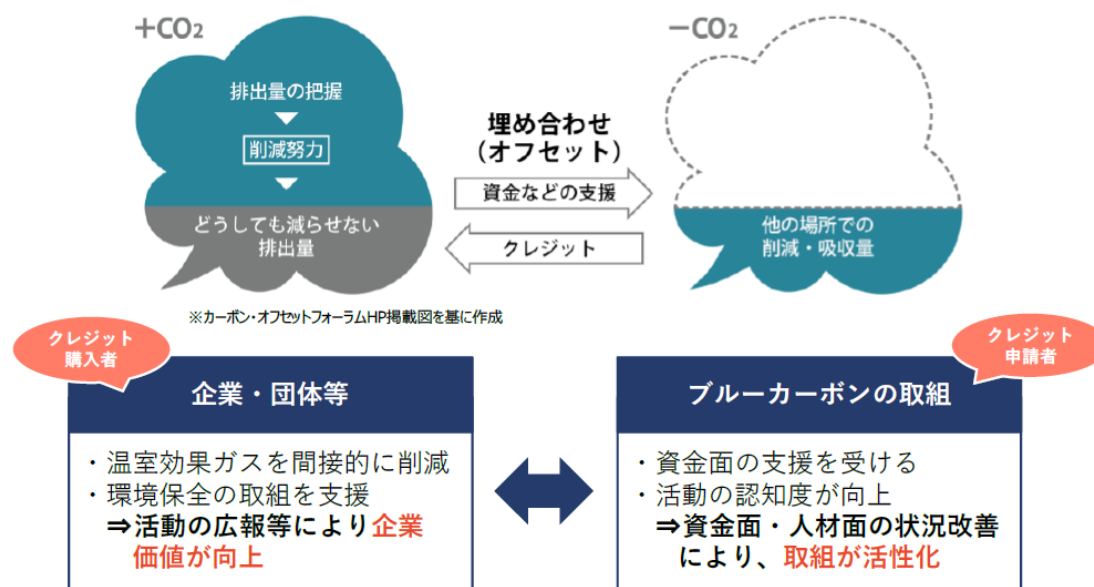


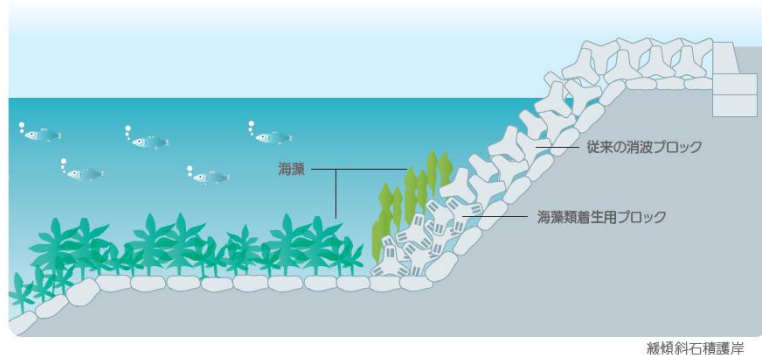
図 1-1 カーボン・オフセットの概要

関西国際空港とブルーカーボンについて

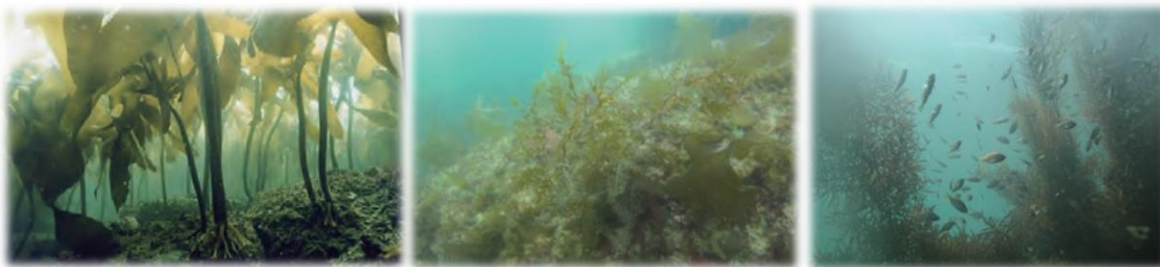
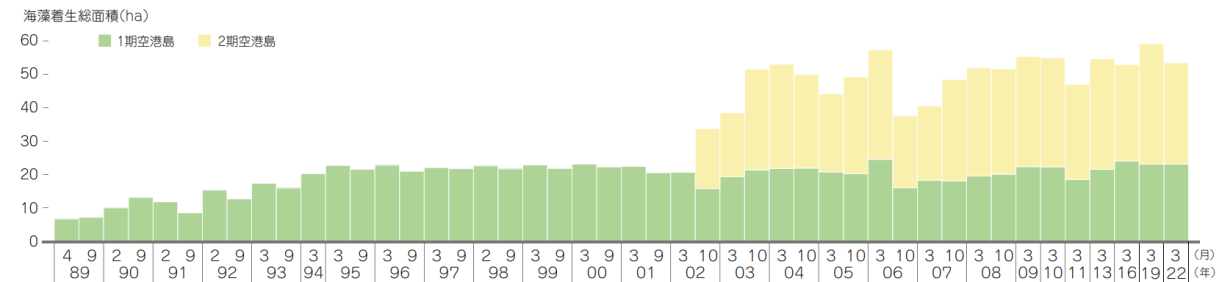
関西国際空港の藻場

- 護岸の大部分（約9割）に緩傾斜石積護岸を採用。
- 広い範囲に光が届くことで豊かな藻場環境が創造されており、長年にわたり継続して藻場の育成・維持やモニタリング調査に努めている。
- 藻場面積は大阪湾の藻場面積の約2割を占めていると言われ、最新の調査（2022年3月）で54haを確認。産卵場や育成場としての水産資源の供給、水質浄化だけでなく、CO2排出量削減に寄与できる存在である。

→ **今回、藻場再生の取り組みや長年のモニタリング実績を活用し、Jブルークレジット認証を申請・取得**



藻場の生育状況



関西国際空港 藻場の様子



藻場再生の様子

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて

Zero Emission Airport

関西エアポートグループのCO₂排出量
(Scope 1およびScope 2)※1

2016年度 (基準年)
11.6万t-CO₂※2

2030年度
40% 削減

2050年度
実質ゼロ※3

省エネルギーの推進



ターミナルビルへのLED導入

再生可能エネルギー・ 水素の利活用



太陽光発電の導入

ZEVの導入促進



燃料電池バス

CO₂の吸収



藻場の創出

水産資源の供給
水質浄化
CO₂の吸収
さらには
藻場を活用した地域連携
の推進・地域貢献へ！



航空灯火のLED化



水素ステーション



燃料電池フォークリフト

